

令和7年度

外国学校経験者特別入試【 人文・文化 学 群 比較文化 学 類 】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文(1)【日本語】	問 1 <u>出題意図</u> 本文内容を的確に読み取った上で、筆者の表現の意図を考察し、規定字数以内で文章をまとめる能力を問う。 <u>解答例</u> 小さな子どもに、形式的に「謝る」ことを教えられたとしても、その理由を本質的に納得させるのは難しいという事例を、まず読者に想像させている。そしてそこから、謝ったり責任を感じたりする行為を相対化し、謝罪について言葉で説明することが実は困難であるという認識を共有しようとしている。最終的に、自明なものほど説明が難しい事態について、その理由から考察を試みるという筆者の議論の方向性を提示しようとしている。(198 字) 問 2 <u>出題意図</u> 筆者によって、「謝罪」というものが、一見簡単なようで、その本質は説明しづらいものとして示されている。その問題意識を理解した上で、具体的な話題を提示しつつ、思考する力、批判する力があるかどうかを問う。また関心を持って事象を考察し説明する力、客観的に表現する力が備わっているかどうかを問う問題となっている。 <u>解答のめやす</u> 筆者の見解を踏まえた上で、身近な話題、あるいは社会的、世界的な文化の問題として「謝罪」を考察し、受験者自身が議論を構築することが求められる。その際、適切な例を用いて、議論に説得力を与えられているかどうかを重視する。 出典 古田徹也『謝罪論 謝るとは何をすることなのか』3-5 ページ（柏書房、2023 年）